



見沼たんぼくらのイベント

景観作物 菜の花栽培

日本の春の風物詩と言えば「菜の花と桜」の競演ではないでしょうか。見沼たんぼで黄色と桜色のコントラストの美しさを楽しんでいただこうと、菜の花栽培を始めました。

場所は緑区見沼610番地で一昨年まで里芋・八つ頭を栽培していた1号地です。広さは約1500㎡あります。
(バス停宮本2丁目から徒歩7分)

種まきは、桜の開花時期に見頃をむかえるように10月27日に当くらぶ役員7名で種まき機を使い行いました。

アブラナ科の菜の花は、寒さにも強く雪の下でも花を咲かせるほど逞しい植物と言われてますので、春には畑一面に黄色い花が咲き乱れ、見沼たんぼの桜の回廊と合わせて素晴らしい景観を形成してくれると期待しています。また、与謝蕪村の俳句に「菜の花や月は東に日は西に」がありますが、このような景をこの地で見る事が出来たらと思っております。

4月上旬には園児等に菜の花の摘み取りを体験していただく予定です。(写真は3月8日撮影) (三上 雅央記)



斜面林の体験学習—落ち葉かき . . . 12月13日(日) . . .

氷雨が降ったり止んだりした悪天候の中、20名の方が集まった。作業地は見沼たんぼ地域最大の斜面林、見沼区八景の大和田緑地公園特別緑地保全地区である。

今回はコナラ・クヌギの幼樹畑を中心に、うず高く積もった落ち葉の除去である。隣接する雑木林から吹き寄せた落ち葉である。例年になく大量の落ち葉である。夏季の気温が高く、葉が生い茂ったようだ。

この幼樹は、市民の“どんぐりの里親”が1年掛けて、どんぐりの実から幼樹に育てた成果である。当地でももう少し大きくして、さいたま市内の自然緑地や特別緑地保全地区の雑木林に補植されることになる。

この日に参加された二人の方が、さいたま市みどり愛護会に入会された。森のボランティアとして随時保全作業に加わることになります。(小野 達二 記)



見沼たんぼくらのイベント

見沼塾「見沼たんぼの野鳥」

小峯 昇

春一番が吹く大荒れの天気になるという予報が出て、雨の心配をしながらの観察会でしたが、恐れていた強風も吹かず、暖かく穏やかな日和となりました。

大宮公園のボート池には、オオバン、オナガガモ、キンクロハジロがゆったりと浮かんでいます。我々の姿を見てカモが寄ってきます。どうやら、誰か餌を撒いているようですね。カイツブリが2羽鳴き交わしながら、追いかっこをしていました。そろそろ繁殖期でしょうか。

カワセミが目の前を通過して、杭の上に留まりました。鮮やかな背中のコバルトブルーに皆さん大感激です。



ビンズイ 下見時に撮影

スタート前に見られると約束したビンズイが大宮公園の松林の下にいました。オリーブ色の背中が地面の草に溶け込んでおり、足もと近くにも気づきません。ゆっくりと歩きながら餌を探しているようです。そのうち「ツィー」という高い声を出し松の木に飛び上がりました。

小動物園に飼われているシラコバトを見に行きました。ここには2010年9月にこども動物自然公園から4羽、その後、埼玉県農林総合研究センターから39羽が寄贈されてゲージ内で繁殖しています。現在は100羽を超えているようですね。

頭の上で鳴いているハトを見上げたところなんか変です。どうやら金網の上(外側)にいるようです。逃げ出したのか、それとも他からやってき

たのか？小動物園前のスズカケノキにも留まっています。



小動物園前のシラコバト

大宮第2公園は梅が満開でふくよかな香りが漂っています。梅にウグイスという言葉がありますが、梅の花にやってくるのは圧倒的にメジロが多いですね。メジロは大事な食料源である蜜を吸いに来るのです。よく見るとくちばしを花粉で黄色く染めたメジロが花から花へとせわしなく飛び交っています。

実は、メジロは梅の大事な花粉媒介者(ポリネーター)なのです。梅の実が食べられるのは、実はメジロのおかげなのですよ。



大宮第二公園 満開の紅梅にメジロ

観察された鳥 アオジ、ウグイス、エナガ、オオバン、オナガガモ、カイツブリ、カルガモ、カワウ、カワセミ、カワラヒワ、キジバト、キンクロハジロ、コガモ、コゲラ、シジュウカラ、シメ、ジョウビタキ(雌)、シロハラ、スズメ、セグロセキレイ、チョウゲンボウ、ツグミ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、バン、ヒガラ、ヒヨドリ、ビンズイ、ホオジロ、マガモ、ムクドリ、メジロ

33種 参加者：15名

見沼たんぼ地域の会員関係イベント

雑木林体験-落葉掻き・シイタケの種ごま打ち

2月27日(土)9時30分から大和田緑地公園・特別緑地保全地区(さいたま市見沼区)で、さいたま市みどり愛護会(事務局:さいたま市みどり推進課)主催による恒例の表記行事が実施された。参加者は一般公募者・会役員・会員サポーター・事務局担当者併せて総勢74名である。この行事は前半の雑木林内の落葉掻き、後半はみどり愛護会が保全・管理する雑木林のコナラなどの間伐材を素材とした榎木(ほだぎ)にシイタケ種ごま打ち作業である。

多目的広場での「はじめの集い」での主催者の挨拶、作業の趣旨・手順の説明の後、先ず、落葉掻きを開始する。作業は林内の北部・中部地区に積った落葉を熊手により掻き集め、それを所定の集積所に運搬袋に詰めて運び込むことにある。掻き終わった林床にはタチツボスミレの若葉も顔を見せる。参加者が多かったこと、作業の連携が順調であったことから予定より早めに終了する。

落葉掻きの主な目的は落葉を除去して林床への日当りを良くさせ下草の育成を促進させると共に、落葉を集積することにより効果的に腐葉土(肥料となる)の生成を図ることにある。

次に、後半のシイタケの種ごま打ちに移る。シイタケの育成に適した榎木にその菌糸が育つ種ごまをドリルにより開けられた穴に木槌で打ち込む作業である。穴あけは電動ドリルを使用のため当会役員達が事前処置してある。事前説明の後、榎木相手の作業に取掛る。順調に作業は進み全ての作業は11時20分頃には完了する。

種ごま打ちされた榎木は一般公募者に対して1名当り2本持ち帰り頂くことになる。家庭での榎木管理について資料配布と共に口頭での説明・質疑応答があり、その成果が期待される場所である。晴天で風も少ない作業日和に恵まれたとはいえ、かなりの作業量を参加者相互の連携により無事終了した。(若野 忠男記)

見沼スケッチ会 第9回水彩画展

第9回見沼スケッチ会展が2月29日から3月6日までの間、氷川の杜文化館展示室で開催されました。この会は、見沼たんぼを中心に近隣の風景を、水彩画で描きながら楽しんでいるサークルです。

今回はおよそ80画の作品が展示されましたが、いずれも力作ぞろいの作品ばかりでした。描かれた地域ですが、南域は見沼通船堀公園、北域は加田屋新田や氷川神社と広範囲に及んでおり、活動範囲の広さを物語っています。

中でも、「見沼自然公園」を画材にした作品が17画もありました。春の姿、夏の姿・・・と、それぞれの季節がそれぞれの会員によって描かれているのです。



鬱蒼とした緑の樹木で覆われた真夏の絵からは、アブラゼミの鳴く声が聞こえてくるのです。また、目にも鮮やかな、紅葉した樹木で覆われた晩秋の公園の絵からは、ピュー、ピューと吹く寒風の音とともに枯葉の飛び散って行く音が聞こえてきます。

さらには、向こう側に展示した緑の芝生で覆われた広場の絵からは、鬼ごっこをして遊ぶ子供たちのキャー、キャーという大きな叫び声が聞こえてくるのです。

淡いタッチで描かれた見沼自然公園の絵の中からは、私の耳に、このように色々な音や声が聞こえてくるのが不思議でたまりませんでした。(召田 紀雄記)

見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

見沼通船堀に沿った桜並木 (緑区大間木)

J R東浦和駅から徒歩数分の所、見沼代用水西縁に接して見沼通船堀公園があり、通船堀に沿って桜の並木が続く。通船堀公園は別名竹林公園とも呼ばれ、竹林の遊歩道が整備され、静かな散歩道として親しまれている。

北に広がる土地は将来公園となる予定で、土筆が芽を出し始め、摘み草をする人も多く見られた。

大和田緑地公園 (さいたま市見沼区大和田1丁目)

大宮第二公園の東に広がる大規模な遊水池を含む公園で、斜面林は見沼たんぼ最大といわれる。芝川を挟んで兩岸とも菜の花が満開、遠方の橋の名は「石橋」。

左方は大宮第二公園、右方に見えるのは「さいたま市大宮体育館」。周辺は斜面林の眺めが優れていることから、さいたま市初の「特別緑地保全地区」に指定され、「自然観察さいたまフレンド(小野代表)」などボランティア団体が緑地保全活動を行っている。

芝川、北宿大橋から上新宿橋・さいたま新都心を遠望

兩岸に菜の花がいっぱいの芝川の近景が、中景の桜並木、遠景の新都心建物と一体化した風景は、見沼の春を象徴するような貴重なモチーフ。

いつまでも変わらぬよう願ってやまない。

絵と解説 八木一郎



見沼たんぼくらぶ会員作品展

常泉寺 広島・長崎の火
作者 渡辺菊子



私の散歩道に当たる常泉寺には、いつも赤い灯の絶えない小さな碑が建っており、そばには二人の童子像が添えられて居ります。この記念碑は広島・長崎の原爆でなくなった多くの人々の慰霊のため、当時の住職が創られたもので、焼け跡に残された火をもとに70年を過ぎた今も消えることなく灯されております。

福島が故郷の私にとっては原発事故の記憶も鮮明なので、思わず手を合わせたくなります。これからも永く平和が続くことを願ってスケッチしました。

見沼たんぼ探訪記

正月の武蔵一宮氷川神社

元旦の朝、大宮高鼻の武蔵一宮氷川神社に初詣に行く。二の鳥居から氷川参道を進むと、三の鳥居までは左右に露店が隙間なく並び、しめ縄、だるま、焼きそば・・・等それこそ色々な物を店頭で広げている。どの店も赤や黄の飾り幕を垂れ下げていて、賑やかな雰囲気を一層醸し出している。

三の鳥居を潜ると、急に人の流れが滞り30～40分待つことになる。初詣客があまりにも多いので、太鼓型をした「神橋」の手前で、楼門に進む人たちの流れを交通整理しているのである。神橋を渡ってから楼門の前で、楼門を潜ってからも夢殿の脇で・・・という具合に各所で交通整理が行われ、ようやく拝殿前に辿り着くことになる。



初詣客がこれほど多いことは、氷川神社の創建が下記のように相当古い時代であり、多くの人たちに信仰されてきた事にも起因している。

氷川神社にはスサノウノミコト、イナダヒメノミコト、オオナムチノミコトの三神が祀られており、今から二千四百有余年前の第五代孝昭天皇の御代に創建されたといわれている。約千二百年前の聖武天皇の御代には、武蔵国一の宮と定められ、醍醐天皇の御代に定められた「延喜式」神名帳には名神大社として記録されている歴史ある神社である。

家内安全、商売繁盛、交通安全・・・等、参拝者は各人各様、頭を深く垂れ拝殿に向かって祈願している。今年1年が本当に幸福な年でありますように、改めてこの紙面をお借りして祈願申し上げます。
(召田 紀雄記)

芝川第一調節池を訪ねて

新年早々よく晴れた日に、芝川第一調節池に出かけてみた。この場所はチュウヒやハヤブサなどの猛禽類がよく観察できるとして、数年前から何度も行っている。とにかくカメラマンの多いところでもある。

場所は、さいたま市緑区の下山口新田と隣接する付近の広大な地域で、約92haで東京ドーム約20個分もある。1979年の着工とあるが、まだまだ工事中の状態である。

実際に行ってみると、芝川の右岸はまだ人の入られる場所はなく、現在もトラックや重機が動いている。

埼玉県のホームページには、完成時の地図が表示されていて、芝川の左岸には、水鳥の沼や水鳥の越冬地そのほかにも、小魚の池や猛禽類の休息地、バッタの原っぱなど様々なエリアが造られるようである。

今の段階では、正面ゲートも決まっておらずどこからでも中に入ることが出来る。但し便所やベ



ンチなど肝心なものはない。

近くには民家園や神社、公園もあるので、完成をすれば半日程度は十分に散策できる自然豊かな憩いの場所になると思う。

芝川の左岸の方は写真が示すよう広大な水場と周りには遊歩道が出来ているので、一度お出かけになってはどうかと思う。

JR 武蔵野線で東浦和駅または、JR 浦和駅よりバスにて「念仏橋」で下車をし、歩くのが便利である。
(佐々木 明男記)

見沼たんぼの仲間たちNo.37

社会福祉法人さくら草

春田 幸恵

昭和61年に障がいのお子さんを持つ親が立上げ無認可施設として20年活動ののち“親亡き後の生活の場を”と法人取得に向け活動。平成18年に認可施設を開所、平成28年で10年を迎える障害者施設です。

さいたま市南区太田窪3501-2

TEL (048) 813-7426

法人の理念『どんなに障がいがあっても地域とともに支えあい自分らしく暮らせる社会を!』をめざし法人の事業として相談支援事業所を2ヶ



所、日中活動の生活介護事業所を2ヶ所、放課後等児童デイサービスが1ヶ所、居宅・移動支援・生活サポートを行う事業所が3ヶ所、そして10名のグループホーム1ヶ所の計9事業所で日々活動中です。

一部の紹介ではありますが、相談事業所では知的・身体・精神の障がいの方の本人を取り巻く生活をコーディネートする事を始め、小さな悩み事から職場を探したり、本人の希望する施設を紹介したり病院を探したりと言った事などもしています。

日中の活動となる生活介護の事業所では医療的ケアを必要とされる方(胃ろう、経鼻経管栄養、気管切開、痰の吸引等)、重度心身障がいの方、知的障がい、多動等ある重度の障がいの方が利用しています。

健康管理を中心に機能訓練、散歩、軽作業(資源回収、陶芸、手作り石けん、手漉きのはがき)などを日課として行っております。

また月1回講師の先生に来て頂き音楽療法やアロマセラピーをしたり美容カット、理容カットなど有償ボランティアさんに来て頂いたりしております。

移動支援等を行う事業所では本人、家族の思いを大切に初詣に出掛けたりバレンタインのお買い物、イチゴ狩りに、野菜の収穫体験、おいしい焼肉に、山登り、時には日々のストレスを海に向かって“バカヤロー……”と言った事にも寄り沿います。



ひとつでも多く体験・経験をし、ひとつでも多く笑顔が見られる様に……ご本人と一緒に歩んでいます。

最後には是非あなたも“さくら草”のみんなとの出会いを……。

見沼たんぼを支える農家さん

松沢廣さん

日差しは暖かくなつたとはいえ、風はまだ冬の寒さを感じさせる2月の末、第二産業道路沿いの中川天神辺りで、突然、ロール状の稲藁を積んだ家を発見！敷地内のハウスの中では、干し上がりを待つ切り干し大根がずらりと並んでいます。「場所は来ればわかるよ。」と言われたわけが分かりました。

農業を始めて60年近くになるという松澤廣さんは、農家の4代目。耕作出来なくなった農家さんから頼まれた農地も含めて、現在、見沼たんぼの水田や畑を3町歩近く耕作しています。



(松沢博さん)

細かい仕事が多いので、近所の奥さんたちに都合のつく時だけ手伝いにきてもらっているそうです。

ご両親がおられた頃は、店番をしてもらえたので自宅でも直売していましたが、その後は農作業に出て無人になった間に品物が無くなってしまふことが多く、ひどい時にはトウモロコシを箱ごと持って行かれたこともあり、やめてしまったそうです。今は、コープ中川店、染谷農産物直売所、ヨーカ堂大宮店の地場産コーナー、木崎ぐるめ米ランドで米や野菜を販売しています。

就農したての頃、芝川の向こう側にある畑は土地が低かったので、雨が降るとあっという間に水

浸しになってしまい、一晩でキュウリが全滅してしまったこともあったとか。あれが一番辛かった、と言いつつも、まあ、農業はそんなものだとあきらめてるからね、と、にこにこ屈託なく話される姿に、聞いているこちらもほかほかと暖かい気分になってしまいます。

しかし、このところの米の値下がり著しく、米でやっていくのは本当に厳しくて、やめる人がまた増えるのではないかと心配されていました。一方で、市民の中にも地元のお米を食べてみたいけれど、どうやって手に入れたらいいのかわからない、という人たちもいます。市民が買いやすく、そして農家にもメリットのある価格で販売できる双方向のしくみがあつたらなあ、と思いました。

松澤さんはたんぼの一部で二毛作もしています。稲刈り後のたんぼに、大根や小松菜、のらぼう菜などを植えています。長年の苦労や工夫で見沼たんぼの土を知り抜いているからこそ、なので



しょう。活用しようと思えば、まだまだ農地は元(稲藁、発見！)

気に活用できるのだと教えられた気がしました。春にはのらぼう菜が黄色い花を咲かせ、それが新都心から見ると菜の花畑の眺めになるそうです。

都会のすぐ近くに、たんぼや畑の広がる風景。色とりどりの芽吹き季節も、もうすぐです。

(取材：島田・高橋、 記：高橋)

・染谷農産物直売所(片柳コミュニティセンター内)は、土・日 9:15~16:00 の営業。

見沼たんぼくらのイベント案内

平成28年度見沼たんぼくらぶ総会

日時：4月16日（土）10時

会場：見沼グリーンセンター2F中会議室

交通：JR宇都宮線土呂駅東口から徒歩10分

第65回自然観察ハイキング『神明社・鷲神社&春の七草とサトザクラ（ウコン・カンザン）』

日時：4月16日（土）13時～16時

集合地：市民の森 見沼グリーンセンター正門

参加費：¥500（ただし、会員は無料）

交通：JR宇都宮線土呂駅東口から徒歩10分

見沼ふれあい農園づくり『京芋・里芋・八つ頭・生姜栽培<会員限定>1回種芋植付』

日時：5月2日（月）8時（受付7時30分）

会場：見沼たんぼ農園3号地（緑区見沼413）

* 事前申込制（参加者には現地案内図送付）

第106回見沼塾『氷川神社・氷川女體神社・中山神社』講師：織本 重道氏

日時：5月28日（土）10時（受付9時30分）

会場：さいたま市立大宮図書館地階視聴覚ホール

第107回見沼塾『見沼代用水開設の立役者 井澤弥惣兵衛為永』講師：青木 義脩氏

日時：5月29日（日）10時（受付9時30分）

会場：さいたま市立大宮図書館地階視聴覚ホール

第108回見沼塾『見沼たんぼの昆虫』講師：牧林 功氏 * 青空講義と観察

日時：6月12日（日）9時30分

集合地：さいたま市立大宮体育館正門

交通：東武アーバンパークライン大和田駅より徒歩15分

会員の主宰するイベント情報

自然観察ハイキング『見沼たんぼの春の七草&斜面林のキンラン・ギンラン』

日時：4月29日（金・祝）9時

集合地：東武アーバンパークライン大宮公園駅前

解散地：大宮公園

参加費：¥500（中学生以下は無料）

見沼たんぼくらぶ会員募集中！

- 季刊『みぬま通信』をお届けします。（4月・7月・10月・1月発行）
- 埼玉県土地水政策課の支援のもとに、見沼たんぼ地域の里やまで、様々の体験事業を展開しています。
 - ① 見沼ふれあい農園づくり：農地はスタッフが耕運し、畝づくりを済ませ、種蒔き・植付から除草、収穫までの作業です。「京芋・里芋・八つ頭栽培」や「秋野菜栽培」などを楽しみ、福祉施設にも寄贈します。
 - ② 自然観察ハイキング：自然観察指導員のガイドで、年4回、史跡を巡りながら、花や鳥などを見て回ります。
 - ③ 見沼たんぼ清掃ボランティア
 - ④ 斜面林の体験学習
 - ⑤ 見沼塾―見沼の自然や文化を学ぶ講座
- 年会費 個人（同居の家族単位）・団体・企業とも1口¥1,000円（団体・企業は3口以上）

みぬま通信第66号

発行日 平成28年月4月1日

発行所 見沼たんぼくらぶ

〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町
1-2124-3 小野方

TEL・FAX (048) 683-1764

E-mail t.ono@axel.ocn.ne.jp

URL <http://minumatanbo.web.fc2.com/>

© 2016 Minuma Tuusin